

- 両社の保有する技術・知見を活用し、共同開発するソフトウェアを中国電力の下松蓄電所などに導入して実証試験を行い、蓄電池運用最適化システムの商用化を目指します。



保有技術・知見

- 電力・エネルギー事業の実務経験と地域展開
- 電カトレーディングの運用実績と知見
- 発電設備の建設・運用技術

AsahiKASEI

- 化学・素材メーカーとしての材料解析・分析技術
- 電池開発・セパレータ事業で蓄積されたリチウムイオン電池の知見
- 電池劣化診断・予測技術

研究役割

実証フィールドの提供ならびに運用・取引実績の評価


- ・蓄電池活用に関する運用条件・課題整理
- ・実証フィールド(下松蓄電所等)の提供
- ・電力需給運用や市場取引の評価

充放電計画を立案するソフトウェア開発・実装

- ・電池材料特性と劣化挙動の分析・予測
- ・大型蓄電設備から取得できる電池情報を基にした劣化診断・予測
- ・電池劣化を踏まえた充放電計画最適化支援

蓄電池運用最適化システムの概要および期待される効果

本システムの提供価値：制約下で資産価値を最大化する運用判断技術

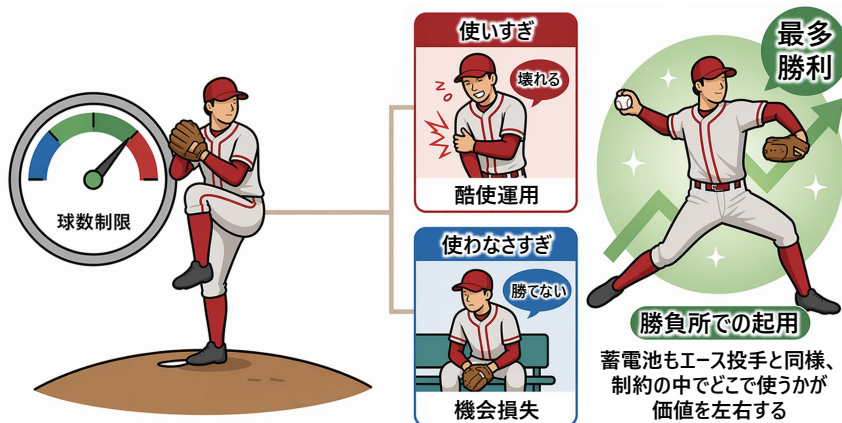
様々な制約条件、市場環境変化の中で、蓄電池を最も価値が出るように使う  蓄電池事業に係る長期的な視点での収益性の向上

なぜ「使い方の最適化」が必要なのか？

蓄電池は使いすぎても、使わなさすぎてももったいない資産

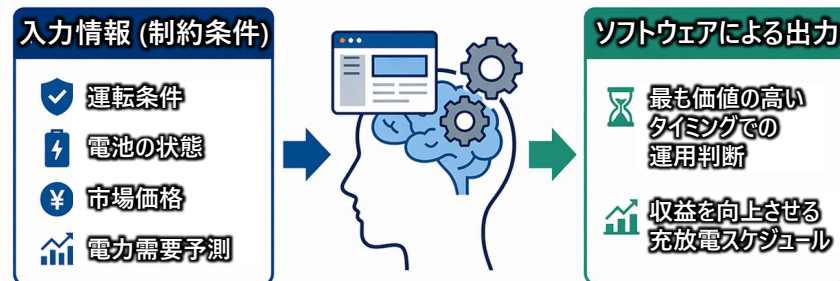


例：球数制限のある「エースピッチャー」



ソフトウェアが提供する「運用の納得感」

ただ電池の寿命を延長するのではなく、「使い方の判断」を支える

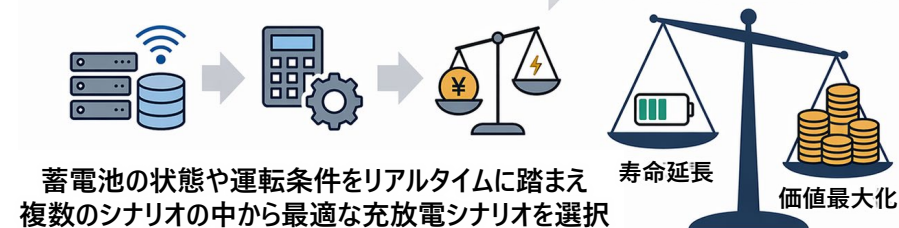


条件を守りながら、無理なく・無駄なく運用



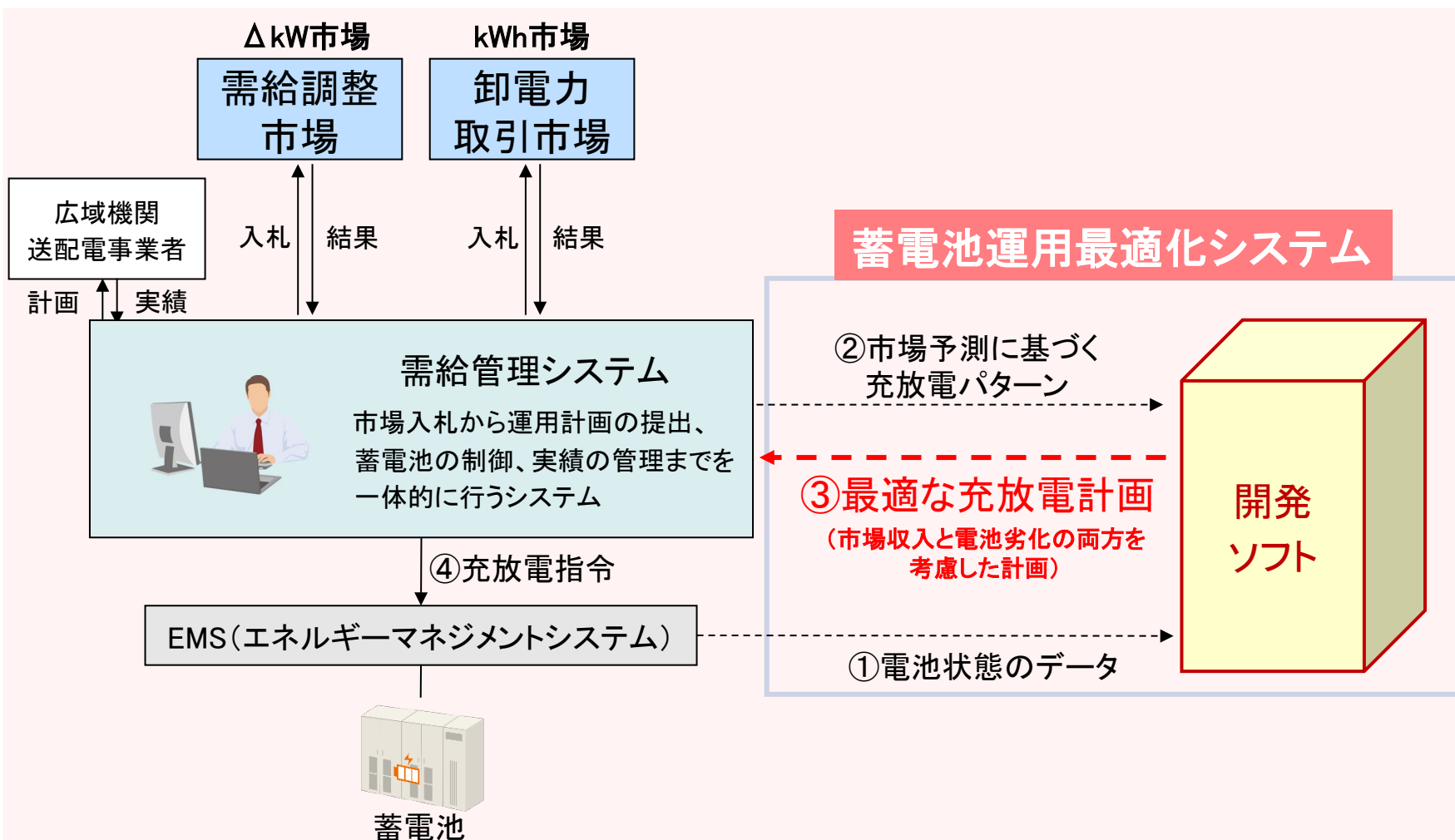
→ 限られた運用余力の中で、資産価値を最大化させる

単に寿命を延ばすのではなく蓄電池の価値を最大化させる



本システムを活用した電力取引のイメージ

- 本システムにより、電池劣化を考慮した市場取引を実現。
- 蓄電池の資産価値を最大化する運用設計を支援します。



共同開発ステップ

- 共同開発の期間は、2026～2029年度の最大4年間で予定しており、2028年度以降に、下松蓄電所への実装を目指します。

▼
現在：2026年

Step 1: 研究開始 実証準備

- 研究テーマ・目的の明確化
- 共同研究体制・役割分担の整理
- 実証準備・計画策定

2027年度頃を予定

Step 2: 実証

- 実証設備導入
- 実証計画に基づくデータ収集・検証
- 中間評価と課題の抽出・改善

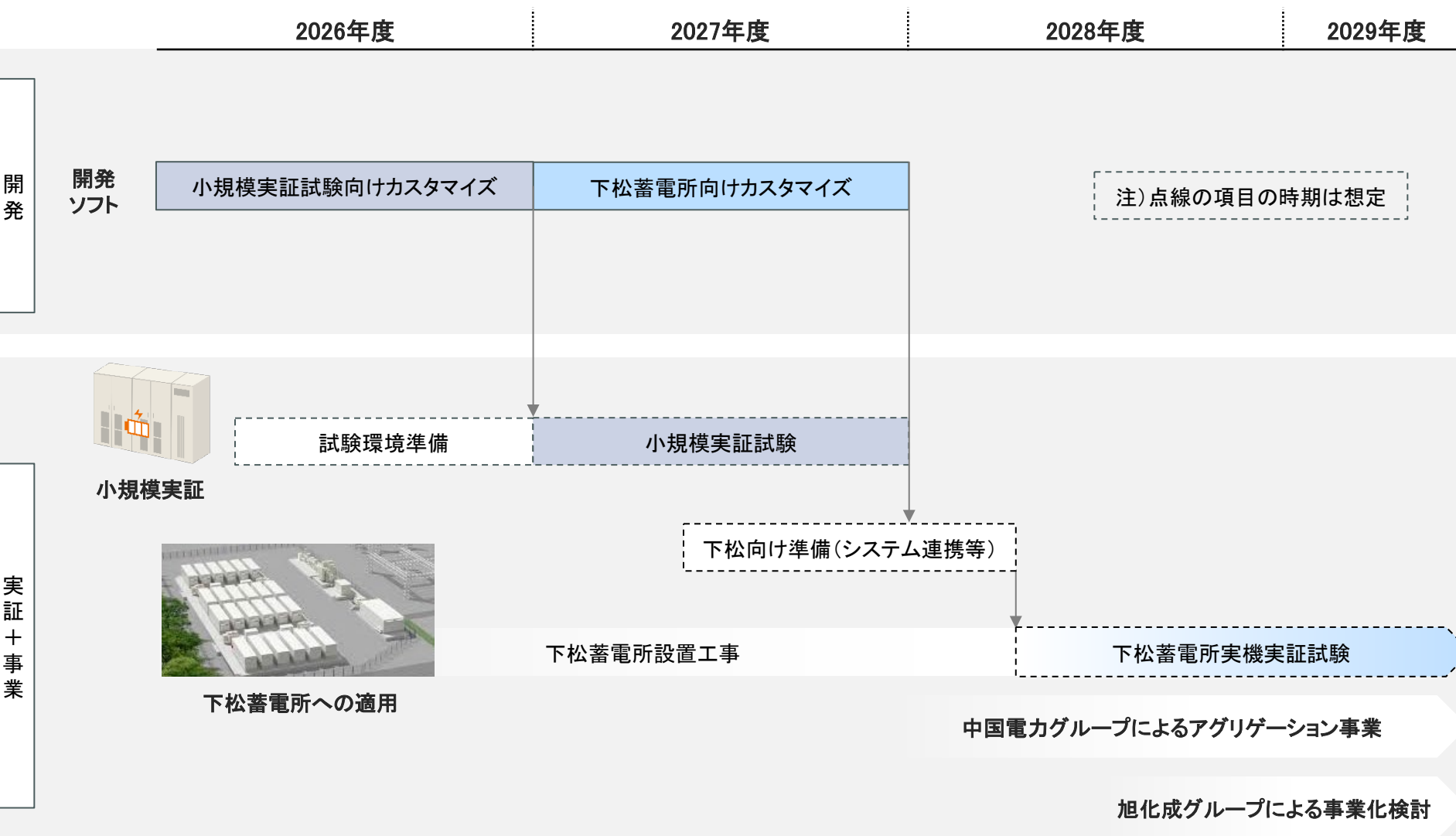
2028年度以降を予定

Step 3: 実装

- 仕様の確定・実装対応
- 運用開始後の効果測定と改善サイクル構築

共同開発スケジュール

■ 約4年をかけて共同開発を進め、得られた成果を両社が事業に活用する予定です。



今後の方向性

- 共同開発の成果については、各社の今後の事業に活用していきます。



- 蓄電池の更なる普及拡大に寄与することによるカーボンニュートラル社会実現への貢献
- 系統用蓄電池事業の収益性向上
- アグリゲーションビジネスの展開による事業拡大および新たな収益機会の創出

AsahiKASEI

- 共同開発を通じて得られる運用・劣化に関する知見を素材開発へ継続的にフィードバックし、材料開発・製品提案の高度化を目指す
- 電池材料と運用をつなぐ取り組みを通じて、さらなるソリューションビジネスへの進化を検討
- 北米含むグローバル展開の可能性を模索し、中長期的な事業成長を目指す